７・３１～８・４　日中子どもの版画作品展・第五回中日少年児童版画展版画体験の案

思いが実る樹 ～思いが詰まった木の実をシール版画でつくろう！～

（感想カードを貼り付ける樹を共有して）

研究部　　山本隆一

＜導　　入＞○漢字シートを見せ、日本語を読んで中国語を聞く。

栗、柿、→桃。

○日本の昔話に「桃太郎」がある。（絵本提示）年老いた夫婦のおばあさんが川から流れてきた桃を持ち帰ったところ、中から男の子が生まれ出て、成長して悪さをする鬼を退治したというはなしである。まさか、桃から人の子どもが生まれる　と言うことはないと思われるが、木の実には人にさまざまなものを与えてくれる体の栄養や生きる力、もしかしたら夢までも・・・。

木の実というのは、外から見えない中味があって、どんなものが詰まっているかわからないという、想像をかき立ててくれます。今日は、「ステンシルローラー版画」という、技法を使っていろいろな想いや、普通では思いつかないもの、おもしろい形などを、空想の「木の実」に詰め込んでみましょう！

＜制作過程の紹介＞

1	**○木の実に詰めたい形を、シールを切って　色画用紙にはります！** 本来の版画制作ではカッターナイフを使うことが多いのですが、今日はハサミで形を作ります！ ※形の内側を切り抜きたい時は、シールを折って切ると中を切り抜くことができます。シールは木の実（丸い形）に貼り付けるのでばらばらになっても大丈夫です。 ・・・・はさみで切った形を○木の実（色画用紙）に貼り付けます。 ☆シールを貼る前の下地に色模様をつけると　ひと味ちがった作品になります！ ただし、これから色を塗るので、濃い色や色を重ねてしまうのは適当ではありません。

2	○ **シールを貼った木の実に色をつけます！** 型ワクをのせ、ローラーを使ってインキを付けます。 ※画用紙の色と違いの大きい色がシールの色をはっきり見せてくれます。 ※ローラーの使い方を覚えて下さい。 ☆一色で色つけする方法もありますが、ここでも、下地の時のように色模様にするという方法もあります。
3	○ 今日は、時間の関係で、できないのですが、この版画は、色を重ねて表現できるという、特長があります。多い時は、３回、シールをはり足して、色を重ねます。作例のいくつかは色を重ねています。また、一度に何色かの色を塗ってしまう方法もあります。 インキをつけ終わったら、シールをはがして作品を完成させます。 （はがしたシールもきれいなので、別の紙に貼ると、もう一つの作品になります！）
4	○できあがった木の実の周りに、サインやメッセージを書いて、好きな形に切り取り、「想いがみのる樹」に貼り付けましょう！

＜子ども達の＞活動

1	シールを取り、一度丸い形に切ってから、ハサミで思い思いの形を切って好きな色の色画用紙（木の実）に貼りつける （貼る前に何色か、色を付ける方法もある）
2	型枠をのせて、ローラーで、好きな色を着彩する （一色だけでなくてももよい）
3	木の実の形に切り取りシールをはがして作品を完成させ、周りの余白にサインやメッセージを書き込んで、「思いがみのる樹」に貼り付ける （テープ糊使用）

＜材　　料＞

・木の実（○直径１２センチを描いた色画用紙２０×２０㎝）　６色程度１８０枚用意

・シール（○直径１２センチを描いたもの　１４×１４㎝）　　１００枚用意

・型枠（直径１２センチの○を切り抜いた A4 紙）　　２０枚程度用意

・A４半裁紙　１００枚程度（ローラーでの色つけに使用）

＜用　　具＞

・はさみ　　４０本

・ローラー　２０

・インキ皿　１０

・インキ　赤　青　緑　黄　白　（５色）

・長机　　６台　（作業台　刷り台）

・机カバー　　新聞紙

・はがしたシールを飾る紙　模造紙２枚

・テープ糊　５

・カラーマジック（６色セット）またはポスカ（８色セット）　２

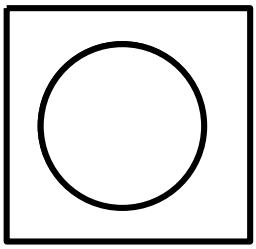
＜木の実・色画用紙＞

※漢字シート　栗　　柿　　桃

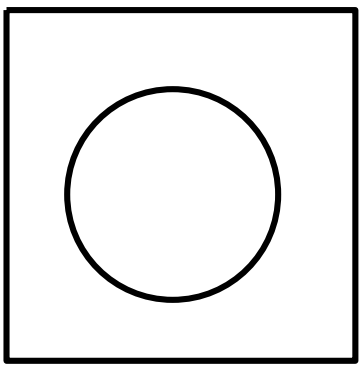
※「桃太郎」の絵本

＜活動の補助者＞

・インキで着色する部所に２名　　インキの調整とローラー使用の補助



直径１２㎜



直径１２㎜

＜シール＞

◎参加者は１集団３０名程度を想定している。